

楽しい仏教用語

その32

【三蔵法師（さんぞうほうし）】
三蔵法師といえば、あの『西遊記』を思い出す人が多いことでしょう。孫悟空・沙悟浄・猪八戒という弟子たちに助けられながら、中国から天竺（インド）へ、お経を求めて旅をするお話です。

お釈迦さまの説かれた教法をまとめたものを『経蔵』といい、お釈迦さまが定められた戒律をまとめたものを『律蔵』。経と律に対して弟子たちが注釈したものを『論蔵』といいます。これが三蔵です。いわば、仏教聖典のすべてというわけですね。

この三蔵に精通し、経典を中国語に翻訳した僧を、三蔵法師と呼びました。その中の一人、玄奘という名の三蔵法師は、唐の時代の学僧で、経典を求めてシルクロードを経てインドに入り、帰国後、多くの経典を翻訳しました。



善教寺「石」シリーズ その14 『駐車場の灯り石』

そしてその旅行記『大唐西域記』は、当時のインドや中央アジアに関する貴重な資料となったのです。『西遊記』は、これをモデルにして作られたものです。

【三昧（さんまい）】

「読書三昧」や「ゴルフ三昧」などと、日常使われているように、一つの事に熱中して他の事に心が向かないことを「〇〇三昧」と呼んでいます。

この三昧は、インドの語「サマーデー」を音訳した語で、精神を一つの事に集中して乱さないことをいい、仏道修行上、大切な仏教語なのです。親鸞聖人は、比叡山で修行しておられた頃、常行堂で常行三昧をおさめられました。これは、伝教大師の説かれた四種三昧の一つで、阿弥陀仏のまわりを九十日間めぐり歩いて、不断念仏をおさめる修行です。

このように、三昧は、精神集中という意味でひんばんに使われる言葉なので、一般にも浸透していったのでしょう。

しかし、同じ三昧でも、「念仏三昧」は、ありがたいことですが、「ぜいたく三昧」や「道楽三昧」などは、ちょっと困りますね。

（辻本敬順氏「仏教用語豆辞典」参照）

住職レター

ようやく春めいてきた今日この頃ですが、先日は久しぶりの大雪が降りました。雪が降って喜ぶのは、息子くらいでしょうか…。

私は、雪で遊ぶ息子の横で、雪かきに大奮闘。日頃、重労働をしない

私は、雪かきだけで、筋肉痛に…。これくらいの雪で筋肉痛になるとは、雪国にお住まいの皆さまから、笑われそうです。

しかし昔に比べると、この東広島も雪が降らなくなりました。私が子供の頃は、常に十センチくらいは積っていたように思います。多い時で二十センチくらい。本堂の屋根からは、いつも氷柱が下がっていたことを覚えております。

前回の大雪は、二〇〇八年一月二十一日でした。大雪



と云っても、約十センチくらいだったでしょうか。

この度は、本堂の前に、息子と一緒にかまくらを作り、ました。本堂屋根からの雪を集めて作った大作です。よく考えたら、雪かきで筋肉痛に

なったのではなく、かまくら作りが原因だったようですね。

雪が降った翌日、本堂へお参りされた方、

このかまくらを見て、「へー、こんなに降ったんですか!」と、皆さん驚いていらつしやいました。

